

県外派遣 参加報告書



報告者 川井 剛

○会場 コカ・コーラボトラーズジャパンスポーツパーク体育館（鳥取県鳥取市）
県立鳥取産業体育館（鳥取県鳥取市）

○日程

3月15日（金）：審判研修会（コカ・コーラボトラーズ）

日程	内容	講師	備考
15：15～	集合・受付		動ける格好で集合
16：00～	開講式・講義	下記参照	視聴覚室
17：30～	実技研修	下記参照	フロア
19：00～	解散		

3月16日（土）：男女1回戦

3月17日（日）：男女2回戦～準々決勝

3月18日（月）：男女準決勝・男女決勝（仕事のため不参加）

○研修会内容

【研修会テーマ】・・・3POについて

【研修会内容】・・・① 講師によるテーマをもとにした講義

→トップリーグの映像を用いてテーマに関するケースの検証

② 講義で習った場面の分解練習

→県内高校生をモデルとして、3on3/4on4での分解練習

【講師】・・・講義：久保裕紀氏（東京）

実技：久保裕紀氏（東京）宇田津浩史氏（愛知）谷地温氏（秋田）

【講義】・・・3POについて（久保氏より）

久保氏より、テーマに基づいて映像の検証を通した講義が行われた

(1) テーマ1 3or2

- ・3ptsのアテンプトに ピーク、フラッシュ はっきり示す
- ・見えたものは情報として**はっきりと示す習慣**を
→**パートナー（プライマリーレフェリー）が確認できているとは限らない**
- ・Bリーグでは、成功したショットが2ptsか3ptsかの確認はいつでもできる
- ※Bjリーグでは、審判報酬のカットや、回数の制限などの罰則もあった
- ・ミスや間違いは起こる→何らかの原因がある
- ・約束や習慣を行わないとどうなるか→2点か3点か分かりにくいときがある
- ・一方で、自分が確認できなかったものについては**憶測で示さない**

○共通するシチュエーションは、**スクリーンがからむプレイ**→難しい

(2) テーマ2 スクリーン

- ・スクリーンには表と裏があることを理解
 - チェックイン スクリーンの受け手
 - チェックアウト スクリーンの送り出す側
- ・どちらのレフェリーが表を見て、どちらのレフェリーが裏を見るのか
 - エリアとアングルのプライマリー
- ・スクリーンは一回だけではない
 - スクリーン リスクリーン**
- ・ボールを持っているマッチアップがあるレフェリーはそのマッチアップと**次のプレイの受け手が視野に入るポジション**へ
 - プライマリ・エリアの意識
- ・スクリーンで直接ゴールに**ダイブしていくケース**でも、プライマリレフェリーはしっかりとプレイに接続
- ・センターはセカンダリーの意識を持ちつつ、ショットの3or2にピーク、フラッシュをしつつも、左手でダイブするプレイヤーも確認
- ・ストロング・サイド・ポケットの理解
 - 3POの一番弱いスポット**→ストロング・サイドのハイポスト

(3) POE (POINTS OF EMPHASIS)

- ・見た（判定した）情報ははっきり示す
 - ・パートナーが必ずしも自分が持っている情報を共有しているとは限らないことを知っておく
 - ・プライマリー、セカンダリーや、プレイの表・裏（アングル）を理解することで、正しい判定に繋がることを知っておく
 - 自分が見えていないものは、どちらかのパートナーから見えている**ことを理解
 - ・コミュニケーションには2種類ある
 - ・自分が持っている正しい情報はパートナーに伝え、その場で共有
 - アシスト**
 - ・パートナーから確認がほしいとき、意見を聞きたいときは、自分からコミュニケーションを取る
 - セカンド・オピニオン**
- ※同じプレイを判定していても、中身が違うことも考えられる。コミュニケーションを取るときは、**必ず言葉に出して共有する**
- ・「**見たもの**」 「**判断したもの**」を「**正直に**」 「**嘘や言い訳をしない**」
 - 場面によっては、選手やコーチの主張も受け入れて・・・

【 実技研修 】・・・県内高校生をモデルにしたテーマごとの分解練習

- ・研修生を16クルーに分け、クルーごとに各シチュエーションを繰り返す
- ・クルー 長谷川氏（香川県 A級） 濱口氏（新潟県 B級）
- ・研修の実際

① 3or2・・・プレイヤーは3人ずつ。速攻のシチュエーションで1往復

※分解練習途中、久保氏が何度か止めて、研修生にアドバイス

- ・CtoCのランや、リバウンドを最後まで見届けてからNewleadに行くこと
- ・3or2を示すときに、どちらの手がよりいいのか

・**やらないといけないからやるではなく、何のためにやるのかを理解**して取り組むことが大事。細かいことにも**こだわって**取り組む。

② オンボールスクリーン・・・プレイヤーは4人ずつ。ハーフコート

※宇田津氏から研修生へのアドバイス

- ・スクリーンの表が誰で裏が誰なのか
- ・Cは**ハイピックに対してレベルを少し上げて準備**

③ ハンドオフからピック・リピック・・・プレイヤーは4人ずつ。ハーフコート

※宇田津氏から研修生へのアドバイス

- ・Tのベーシックポジションから、最初のパスでレベルを一つ落として、そのあとのピックに対してもう一つレベルを落とす
- ・一度レベルを落としたあとにボールが高い位置に戻った際、慌ててポジションを変えると次のプレイに対応が遅れる。アングルが取れているなら、見極めてから動いても良い。
- ・Lがクローズダウンポジションにいるのはローテーションのため。そうでないならセットアップに。広がっていることで、Tが捉えられなかったものを捉えることが可能になる。

④ ②や③の状況から逆サイドへスキップパス

※宇田津氏から研修生へのアドバイス

- ・Cはオフボールでただ立っているだけのことが多いが、次に起こることへの準備が必要。
- ・チェックイン、チェックアウトの際、**チェックインしたことをはっきりと体の向きや目線で示す**ことで、クルーがチェックアウトしやすい。



○3月16日（土）男子1回戦 コカ・コーラボトラーズ

CLASSIC RAMS(北海道2位) - 055(東海3位) CC:甲斐(鳥取) U1:山岸(埼玉)

PGC

・甲斐氏の準備して下さったPPTでの確認

- ①ベーシックなメカニクス
- ②シンプルなプレイコーリング
- ③処置のミスは絶対にしない

以上の3つを柱として、プレゲームカンファレンスを行った。

実際

ダブルオーバータイムで緊迫するゲーム展開だったが、CCの甲斐氏を中心に、クルー間でのコミュニケーションを密に図り、安心してゲームに臨むことができた。今後自分がCCとしてゲームに臨む際に、クルーとして取り組みたいテーマの共有や、他のクルーが安心してゲームに臨むことができるような雰囲気作りはとても大事だと思った。

MTG

主任 西氏(徳島)

- ・反省にもあるように、クルーワークがとてもよかった。
→CとLのアイコンタクト/声を使った確認
- ・3or2の場面が実際に起った
- ・どっちかきわどいアウトオブバウンズの際の示し方に工夫を
- ・何度か甲斐さんが笛を遅らせてセカンドで鳴らしたケースでは、なぜプライマリーで鳴らせなかったのか検証が必要

2019年3月16日（土）							
No	コート		試合時間				
男子1回戦	B		16:30	試合終了			
対戦カード	スコア						
	1st	2nd	3rd	4th	OT1	total	
CLASSIC RAMS	18	23	15	24	10	90	
055	11	22	29	18	10	108	
クルーチーフ:甲斐 清 ファーストアンパイア:山岸 大輔 セカンドアンパイア:川井 剛							



○3月17日（金）男子 2回戦 コカ・コーラボトラーズ

SPIRYTUS - 郡山クラブ CC：中川（静岡） U1：石川（岡山）

PGC

- ・コミュニケーションの確認。チームへのコミュニケーション/クルーでのコミュニケーション
- ・メカニクスの確認。ローテーションのタイミング。積極性と繰り返すこと
- ・クロック管理について
- ・UF が起った際、アップグレードやダウングレードの確認をするのはよいが、それにばかり意識が向いてしまい、シューターやファウルをした選手を忘れるケースがあるので、その確認も行う

実際

終始競ったゲーム展開だった。どちらのチームにもビックマンがおり、そのポジション争いやゴール下でのショットについて CC の中川が基準を示してくださり、ペイント内がクリーンになっていった。郡山のベンチがよくコミュニケーションを求めてくる中で、聞き入れる部分とそうではなく制止する部分の判断がとても素早かった。個人的には、ジャンプショットになるケースでポジションが悪く、ストレートラインになり判定できないケースがあった。また、レフリーディフェンスが不十分であるために、何かが起こった原因が分からず、判定できないケースもあった。4Q の終盤に負けているチームのファウルが自分のサイドで起こり、PGC で確認した通りに情報を共有し、アップグレードをする場面があった。その際、ファウルをした選手が誰なのか、シューターは誰なのかという確認もできて、スムーズだった。

MTG

主任 山住氏（広島）

- ・ポストプレイ、ゴール下のショットに対してしっかりと判定されていて、クリーンな印象だった。
- ・ジャンプショットの見方に工夫が必要
- ・アンスポにグレードアップした際の根拠→腕が首にヒットした→C2

2019年3月17日（日）					
No	コート			試合時間	
男子2回戦	B			09:00	試合終了
対戦カード	スコア				
	1st	2nd	3rd	4th	total
SPIRYTUS	21	15	14	13	63
郡山クラブ	20	16	10	12	58
クルーチーフ: 中川 行臣 ファーストアンパイア: 石川 貴基 セカンドアンパイア: 川井 剛					

○全体を通して○

今回参加させていただいて学んだことは、大きく以下の3点です。

1点目は、3or2を含め、現在言われていることの徹底と習慣化です。担当した2つのゲームどちらも、速攻からのクイック3Pや、ピックからの3Pというプレイが頻繁に起こりました。それらのプレイが、大きくて速い選手によって行われるので、実際に確認しづらい場面もありました。このゲームだから意識をするのではなく、日ごろからの徹底と習慣化がされていないと、いざというときに対応することができないと感じました。このことは、何も3or2に限ったことではないと思います。

例えば、チームファウルカウント、EOQでのクロック管理、FTシューターの確認など、現在様々な研修を通して言われていることを徹底し習慣化し、当たり前になることが必要だと感じました。県内の大会において、これらを徹底させていけるように、発信していきたいです。

2点目は、コミュニケーションです。チームとのコミュニケーションと、クルーとのコミュニケーションということでPGCにてお話をさせていただきました。特に今回は、クルーとのコミュニケーションが図られていたことでスムーズに運営できた場面を多く経験できました。タイムアウトの際はボールポジション、リスタート、回数、FTを確認すること、UFの際はファウルをした選手とFTシューターも確認することなど、具体的な場面でどのようなコミュニケーションが必要なのか、実感することができました。そうすることの意味も含めて、県内で伝えていきたいです。

3点目は、判定についてです。大人の男子のゲームということ、190cm台の選手たちがポスト争いをするなど、日ごろあまり目にすることのないコンタクトが目の前で繰り広げられました。やはり判定の根拠として、レフリーディフェンスの徹底と、RSBQの見極めが大切であると感じたと同時に、いわゆるやりにいったファウルについては間髪入れずに笛にするという部分も必要なのだと感じました。

今回、初めて社会人の全国大会に参加させていただきました。いよいよ目前に迫った本県での全国大会を前に、運営面や個々のレフリーのレベルアップの面など、多くの気づきがある大会でした。研修会において、久保氏が「こだわって、こだわりすぎることはない」とおっしゃっていました。まさにその通りだと思いました。IHや国体を目前に控え、これまで様々な研修会を経験してきている鹿児島県のメンバーですが、いろんな知識は頭に入ってきていると思いますが、それらの意味を理解して、こだわって、徹底していく姿勢をもっともって持たないといけないと感じました。

最後になりましたが、講師の方々をはじめ運営をしてくださった鳥取県の方々、このようなチャンスをくださった九州ブロックはじめ鹿児島県協会の方々には心から感謝申し上げ、本大会の報告とさせていただきます。